

オーバーラップ整枝によるイチジクの果実品質向上

当センターで考案した「オーバーラップ整枝」がイチジクの生育と果実品質に及ぼす影響について調査した。その結果、結果枝の生育が抑制されるとともに、果実糖度が高くなることが分かった。

内 容

イチジクでは、凍害を回避する樹形として主枝を高く配置する高主枝栽培が有効とされているが（ひょうごの農林水産技術No.183）、高主枝では結果枝が180cm以上と高くなるため誘引や収穫時の作業能率が悪い。一方、当センターでは作業性が優れ、凍害回避に有効な樹形とするため、高主枝の主幹部を従来の高さで水平に倒した「オーバーラップ整枝法」（特願2014-147213号）を考案した（写真）。オーバーラップ整枝は従来の一文字整枝に比べ主幹部が長くなることから、樹勢の抑制にも効果があると考えられている。

そこで、オーバーラップ整枝がイチジク「柘井ドーフィン」の生育と果実品質に及ぼす影響について検討した。

樹体の生育について、オーバーラップ整枝の方が一文字整枝に比べ、結果枝長が短くなることも

に節数が少なく節間長は短くなった（表1）。果実品質について、果実重は一文字整枝の方が大きく、糖度はオーバーラップ整枝の方が高かった。果皮色は整枝法の違いによる差はなかった（表2）。

今後の方針

オーバーラップ整枝が収量に及ぼす影響について今後調査を行うとともに、高品質果実生産が可能な主枝高、結果枝管理法について検討する。

宗田 健二（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2424）

表1 整枝法の違いが結果枝の生育に及ぼす

整枝法	影響 (2014年)		
	結果枝長 (cm)	節数	節間長 (cm)
一文字	208.5a ^z	36.4a	5.7a
オーバーラップ	153.6b	31.6b	4.8b

^z異なる文字間でt検定により有意差あり（1%水準）

表2 整枝法の違いが果実品質に及ぼす影響

整枝法	影響 (2014年)		
	果実重 (g)	果皮色 ^z	糖度 (°Brix)
一文字	97.4a ^y	5.7	15.0b
オーバーラップ	88.3b	5.7	15.6a

^zカラーチャート値：1（緑）～9（濃紫）の9段階評価

^y異なる文字間でt検定により有意差あり（1%水準）



写真 オーバーラップ整枝